



アイヌタイムズ

第73号

2020年6月11日(木) アイヌ語ペンクラブ



アイヌタイムズ第73号(2020年6月11日発行)からアイヌ語抜粋
著者: 横山裕之

国際母語の日(2)

(アイヌ イタク [アイヌ語])

エスペラント アナクネ、第72号* オルシペ オッタ マカナク イキ プ ネ ヤ? 世界エスペラント運動 アナクネ、言語の多様性 ネヤ、ア・コリタク ア・イエ 権利 ネヤ、ピリカノ エヤム ワ オカイ ペ ネ ルウエネ。

エスペラント アナクネ、テ パクノ オカ オルシペ オッタ マカナク イキ プ ネ ヤ?

チョカ エスペランチスト アナクネ、ネイ タネ ヤッカ ウサ オカ 言語 チェヤム ルウエネ。ウサ オカ 言語 ウタラ オピッタ、ア・イエ 権利 アン ヒ チェオリパク クニ プネ ワ、エスペラントウラ オヤ 言語 アニ ウネノ ウコイソイタカン ワ、アニ 言語 ウタラ ウネノ シクヌ ヒ チ・キ ルスイルウエネ。

世界エスペラント教会(UEA) 国連 トウラノ テエタ ワノ「国際母語の日」エヤム ワ ウウエヤイコブンテク ルウエネ。エスペラント アナクネ 国際語 ネ ワ、ポロ 経済力 カ 軍事力 カ セムコッタヌ ノ、マク 言語 ピリカ ヤ カ ソモ ヌムケ クニ プ

国際母語の日(2)

(日本語)

エスペラントは、第72号*で述べられてきたことと、どう関わっているのでしょうか? 現在争点となっている問題、つまり、言語の多様性と母語を話す権利は、世界のエスペラント運動が擁護してきたことでもあります。

*エスペラント原文に則した文は、以下のようになります。

エスペラントは、これまで述べられてきたことと、どう関わっているのでしょうか?

私たちエスペランチストは、どのような言語の消滅も望まず、すべての言語に対して、自分の言語を使う権利が尊重されることと、相互のコミュニケーションの中で公平な取り扱いをされることによって、生き残っていくことを望んでいます。

この目的のために長年にわたって 世界エスペラント協会(Universala Esperanto-Asocio, UEA)がこの日を共に厳粛に祝ってきたのは、国際語エスペラントはとても大きな経済的、軍事的な力がある言語のように、言語を選別しようとするものではないことを強調するためでもありました。

ネ セコロ ハウエアン ルスイ クス、エネ
イキ プ ネ ルウエ ネ。

「エスペラント ウン・カスイ ワ、アニ ウサ
オカ 言語 ソモ ウコチャンチャンケ クニ イ
キ・アシ ペ ネ」セコロ、ヴィグティス・フィン
ボガドティル カツケマツ (1980-1996 パ
タ アイスランド共和国大統領) イエ ルウエ
ネ。「タプ ウフナク ポ ヘネ プリカノ ア
エラマン ヒ ネ コロカ、中立的言語 (トゥ
ムコロ 言語 カ トウムサク 言語 カ ソモ
ネ) アン ワ クス、アニ オヤ トウムコロ
言語 エイカウン カ ソモ キ ノ、チ・コロ
言語 ネヤ プリ ネヤ チ・シッカシマ エア
シカイ ルウエ ネ。ネワアンペ 多様性 エ
ヤム モシルン ウタラ プリカノ エラムオカ
ヤク プリカ ワ。

エスペラント ナア トウナシノ ア・ピラサ
ワ、ウサ オカ モシルン ウタラ カスイ ワ
イ・コレ ヒ ク・キ ルスイ ワ」セコロ ハウ
エアン。[8]

ランマ エネ ウン・コピシ ヒ:「ヘマンタ クス
エスペラント ソンノ プリカ イタク ネ セコ
ロ エ・ハウエアン？」

イサイカ。エスペラント アナクネ 国家 カ
民族 カ サク ペ ネ ルウエ ネ クス。経
済的利害、帝国主義的 トウム カ イサム。
オヤ 民族 イサムカ ルスイ クル カ イサ
ム、オヤ クル コロ ペ コウイナ ルスイ
クル カ イサム ルウエ ネ。

エスペラント イエ ルスイ クル アナクネ、
ウサ 民族 オピッタ プリカ ウヘトウラシテ
キ ルスイ ペ ネ ワ、ウサ オカ 文化 ネ
ヤ 言語 ネヤ オピッタ エヤム プリカ ケ
ウトウムコロ ウタラ パテク ネ ルウエ
ネ。

「国際協力 オッタ、先住民族 オッタ、多
言語国家 オッタ、エスペラント プリカ イ
レンカ ネ ア・エイワンケ ナンコロ」(トーヴ
ェ・スクトナブ=カンガス 博士 [9])

「アニ ウサ オカ 言語 イエ ウタラ コロ
権利 ユツパ クス エスペラント アン ルウ
エ ネ。」(ロバート・フィリップソン 教授 [10])

エスペラント アナクネ ウサ オカ 言語 ト
ウラノ ウネノ ウコイソイタカン クニ ア・エイ
ワンケ プ ネ ワ、民族、文化、国民 ネウ
ン ウサ オカ ヤッカ ウネノ ウヘトウラシ

エスペラントは言語の消滅に対して実際に保護
の手段になっているとヴィグティス・フィンボガド
ティル 女史 (Vigdís Finnbogadóttir, 1980-1996
年にアイスランド共和国大統領) は言っています:
「今日ますます明らかになっていますが、中
立的な言語が、一つあるいは二つの言語が持
つ独占的な影響力に対抗して自国文化を守る
上で本当の防壁となるということを、多様性を有
する国々は、今こそ理解するべきと思います。

エスペラントが更に急速な進歩を遂げ、世界中
の国々を支援してくれることを私は心から望んで
います。」[8]

おそらく相変わらず次のように尋ねる人がいる
でしょう:「なぜ、エスペラントがぴったりとした言
葉なの？」

理由は簡単です。エスペラントの背後には、国
家、経済的利害、帝国主義的な抗争はなく、他
の民族とその言語を滅ぼしたり、その市場を奪
おうとする利害関係がある民族もいないからで
す。

エスペラントの背後にあるのは、すべての民族
の間の平和を願い、すべての文化やすべての
言語に対する公平さを目標とする多くの様々な
国や人々のうち善良な人々だけです。

「国際協力にとって、先住民族にとって、多言語
国家にとって、エスペラントは良い解決法になる
かもしれません。」(トーヴェ・スクトナブ=カン
ガス 博士 [9])

「各々の言語の話者の権利を強化することが、
エスペラントの本来の目的となります。」(ロバ
ート・フィリップソン教授 [10])

エスペラントは、公正なコミュニケーションの成
果を推し進める道具であり、またそういう風にし
て、民族間、文化間、国民間の公正な関係の成
果を推し進める道具にもなっています。

テ・アン クニ ア・エイワンケ ヲ ネ。

「エスペラント 多様性 アンパ コロ 共通性
カン ルウエ ネ。 ネットウ ヤク コロ コロ
アン ヒ ク・キ ルスイ。」(リタ・イザック＝
ンジャエ 国連特別報告者[11])

タンペ クス、ウサ オカ モシルン ウタラ
ウコイソイタク ヒ タ アナクネ、エスペラン
ト イカスイ ヤクン ウサ オカ 言語 ウネノ
オカ ワ ウネノ シクヌ エアシカイ ペ
ネ ルウエ ネ。

ネワアンペ アナクネ、2 チュブ 21 ト タ、
ウサ オカ モシレピッタ オカ エスペラン
チ スト ア・ウタリ オピッタ エウン ピリ カノ ハ
ウエオカイ ペ ネ ルウエ ネ。

— www.lernu.net! アニ 国際語 エスペラ
ント ア・エラマン ロ! [12]

世界エスペラント協会広報部、UEA [13]
レナト・コルセツティ、ステファノ・ケラー、ピー
ター・オリヴァ、エミリオ・シド、ヴァシル・カデ
ィフェリ、チームメンバー。

ポスター: © ピーター・オリヴァ/UEA、ウサ
オカ モシリ タ オカ トウンチ

エスペラント カンピ アイヌイタク アニ ヌイ
エ トウンチ: 横山 裕之、アイヌ モシリ
(北海道)

ネブ カ エ・ヌ ルスイ ペ オカ ヤクン オト
ウタヌ アン メール アニ ヌ ヤン: 横山 裕
之(電子メール: hokkajda.esp.ligo@gmail.com
, 北海道エスペラント連盟、日本エスペラン
ト協会 ウン クル)

「... 私は、エスペラントが多様性を支持しなが
ら共通性を創造するという2つの役割を果たし
続けることを望みます。」(リタ・イザック＝ン
ジャエ 国連の特別報告者[11])

したがって、国際コミュニケーションの中で橋渡
し言語エスペラントを使用することは、言語上の
平等を実現し、すべての母語を生き長らえるよう
に支援することになります。

これは、世界中のエスペラント話者が2月 21 日
に全世界のすべての人に送ろうとしているはっ
きりとしたメッセージです。

— www.lernu.net! によって、国際語エスペラ
ントを知りましょう。[12]

世界エスペラント協会広報部、UEA [13]
レナト・コルセツティ (Renato Corsetti) 、ステフ
ァノ・ケラー (Stefano Keller) 、ピーター・オリヴ
ァ (Peter Oliver) 、ヴァシル・カディフェリ
(Vasil Kadifeli)、エミリオ・シド (Emilio Cid) 、
及びチームメンバー [13]

ポスター: © ピーター・オリヴァ(Peter Oliver) /
UEA と色々な国の翻訳者

www.linguistic-rights.org/21-02-2019 *国際先住
民族言語年 2019 (英語、仏語、西語)

エスペラントから日本語への翻訳: 横山 裕之、
日本

連絡先: 横山 裕之(電子メール:

hokkajda.esp.ligo@gmail.com

、北海道エスペラント連盟会員、日本エスペラン
ト協会会員

[1] http://www.linguistic-rights.org/unesco/#UNESCO_103aUK

[2] [www.linguistic-
rights.org/dokumento/Final_declaration_64th_UN_DPI_NGO_Conference_Bonn_2011_amendm
ents_Universala_Esperanto_Aocio_UEA.pdf](http://www.linguistic-rights.org/dokumento/Final_declaration_64th_UN_DPI_NGO_Conference_Bonn_2011_amendments_Universala_Esperanto_Aocio_UEA.pdf)

(国連文書のアーカイブの複製: PDF)

[3] www.terralingua.org/our-work/linguistic-diversity

[4] www.un.org/en/events/motherlanguageday

[5] 2008 - International Year of Languages | <http://www.un.org/en/events/iyl/>

[6] [www.unesco.org/new/en/unesco/events/prizes-and-celebrations/celebrations/international-
days/international-mother-language-day-2014](http://www.unesco.org/new/en/unesco/events/prizes-and-celebrations/celebrations/international-days/international-mother-language-day-2014) (ユネスコ・ウェブページのアーカイブの複製:

PDF)

[7] <https://en.iyil2019.org/about/>

[8] http://www.linguistic-rights.org/uea/Justa_Komunikado_Lingva_Justeco_Vigdis_FINNBOGADOTTIR_prezidento_de_la_Respubliko_Islando_1980_1996.pdf

[9] <http://www.linguistic-rights.org/esperanto-125/Dr-Tove-Skutnabb-Kangas-125-years-of-Esperanto.html>

[10] www.linguistic-rights.org/esperanto-125/Dr-Robert-Phillipson-Professor-emeritus-125-years-of-Esperanto.html

[11] www.linguistic-rights.org/esperanto-125/Rita-Izsak-UN-independent-expert-on-minority-issues.html

[12] www.lernu.net

[13] [Universala Esperanto-Asocio \(UEA\) - www.uea.org](http://www.uea.org)

国際エスペラント協会 (UEA)

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけていただけると大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)

購読料: 1500 円 (4 号ごと/アイヌ語版のみ)

2300 円(4 号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール: otarunay@yahoo.co.jp

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、日本語由来のアイヌ語外来語です。